NIE実践報告

1．タイトル：☆市民性をはぐくむ新聞教育 ー『批判的思考力』の育成をめざしてー

2．学校名

東京都東京学芸大学附属大泉中学校

3．実践者名（代表者名）

古家正暢

4．学年

第3学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会・総合的な学習の時間　　137人

6．単元（本時の学習課題）名

情報化社会に生きる私たち　（公民的分野の学習全般にわたって実施）

7．目標(狙い)

与えれた情報を鵜呑みにせず、そこで得た情報を自分の頭で論理的に考え吟味する力を培う。

8．評価の視点

・新聞スクラップブックおよび新聞記事をもとにした1分間スピーチ
・時事問題に関する小論文

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

公民的分野の学習全般にわたって実施
例・憲法改正と国民投票法　・行政改革と郵政民営化の光と影　・死刑制度存廃と光母子殺害事件公判

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

・憲法改正と国民投票法
5/15社説比較　朝日：「さあ改憲」とはいかぬ　　読売：新憲法へ具体論に入る時だ
⇒国民投票法成立に対する新聞社の見解の差異を読み解く。
・海上自衛隊インド洋上での補給活動
9/12記事比較　産経：日本撤収は死活問題　　毎日：中止でも対応可能
⇒同じバーレーンからの米海軍発表であるにもかかわらず新聞社によって全く異なった記事を読み解く。
・行政改革と郵政民営化の光と影
10/01郵政事業民営化。行政改革の名の下に地方切捨てとならないか。
⇒在京6紙から民営化の「影」を読みとる。
・死刑制度存廃と光母子殺害事件公判
9/21記事比較　一切掲載しない朝日とその他5紙
⇒朝日の一切掲載しない意図を探る。その深奥にあるものは何か。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

・新聞社によって、このように意見が異なるとは知らなかった。
・一つの新聞を読み続けることは危険なことではないのかと思うようになった。
・情報を選択すること活用することの難しさを学んだ。多面的・多角的に情報を取捨選択していきたい。

12．成果と課題

○新聞記事の比較を通して、新聞社により様々な考え方があることを知った。一社だけからの情報を鵜呑みにすることの危険性も少なからず学んだ。しかし、批判的思考力がはぐくまれたかどうかは未知数。
○本校は教員養成の附属学校であることから、多くの教育実習生を受け入れるのであるが、07年度社会科へ配当された学生のうち80％強が新聞を購読していなかった。しかし、生徒の新聞スクラップに触れる中で、実習生の新聞に対する考えは大きく変わり、授業の資料として新聞記事を活用するようになった。大学の図書館で縮刷版を探してきては資料配布するようになった。このことが最も大きな成果といえるかもしれない。